

令和2年10月14日

報道機関各位

**令和2年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構
職員表彰式の実施について****(概要)**

北海道立総合研究機構では、北海道の産業開発や道民生活の向上に特に貢献した研究・発明発見を行った職員に対して、知事賞・理事長賞を授与しています。

今年度については、浦本副知事ご臨席のもと、表彰式を以下のとおり執り行いますので、お知らせします。

【知事賞】

研究名	木造外壁の断熱仕様と防火性能に関する研究
受賞者名	糸毛 治

【理事長賞】

研究名	日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の開発と事業展開の最適化に関する研究
チーム名	日本海二枚貝養殖プロジェクトチーム（15名）
研究名	粉末積層造形法を応用した金属加工法の開発および実用化
チーム名	積層造形用高耐熱無機粉末開発チーム（2名）
研究名	ダスト濃度自動計測器の性能評価に関する研究
受賞者名	芥川 智子

○次第

開式	15:00
国歌斉唱	15:00
選考経過報告	15:01
理事長あいさつ	15:05
副知事あいさつ	15:10
表彰状授与	15:15
受賞者代表のこぼ	15:45

○参考

表彰式では、併せて永年勤続表彰も行います。
新型コロナウイルス感染防止策（マスク着用、手指消毒等）を実施の上、執り行います。

◎日時

令和2年10月21日（水）15:00～16:00

◎場所

京王プラザホテル札幌 3階 雅の間（住所：札幌市中央区北5条西7丁目2-1）

◎報道（取材）に当たってのお願い

当日は、記者席を設けますので、積極的な取材をお願いします。

詳しくはこちらへお問い合わせください。

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（道総研）

本部 経営企画部 経営企画グループ（担当者：齊藤）

電話 011-747-0055 ※平日8:45～17:30 土・日・祝日・年末年始はお休みです。

研究・発明発見受賞研究概要

○知事表彰

研究名	木造外壁の断熱仕様と防火性能に関する研究
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究は、膨大な数の実験を通じて外壁の断熱仕様と防火性能の関係を体系的に明らかにし、実験の繰り返しに頼っていた試験評価方法を合理化した。 ・この成果をもとに「木質外装材を用いた防火構造外壁」を開発し、共同研究者が大臣認定を取得したことにより、道内の住宅事業者が通常、施工している断熱仕様の外壁に、そのまま木質外装材が使用できるようになった。 ・また、これまで規制を受けていた住宅や店舗等の外壁に木質外装材が使用しやすくなったことから良質な街並み景観の形成に寄与できる。

○理事長表彰

研究名	日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の開発と事業展開の最適化に関する研究
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、漁業者の高齢化や漁獲量の減少により疲弊している本道日本海海域では漁業生産量の底上げなど漁業振興策が喫緊の課題である。 ・本研究は、低利用漁港の立地条件等に着眼し、養殖適地診断技術を開発した。また、軽労力で行える新たな無給餌型の二枚貝（アサリ、イワガキ、バカガイ、ムラサキイガイ）の垂下養殖技術を開発した。更に生産商品の商品化と販売に結びつける事業化に関する取り組みを行った。 ・これらの取組をまとめた養殖事業化プランは、道や市町村が行う日本海振興事業に活用されている。

○理事長表彰

研究名	粉末積層造形法を応用した金属加工法の開発および実用化
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本道の鋳物づくりの特徴である多種・少量生産に優位性を発揮できる三次元積層造形技法を活用した新たな鋳造プロセスに着目し、低コスト無機粉末積層造形鋳型の製造技術、品質改良、応用技術を開発した。 ・本研究では、粉末素材の選定や配合など独自の試験により鋳型の耐熱性向の水準を引き上げ、その後、大手セメントメーカーとの共同研究により鋳造温度の高い鋳鋼品に適用する無機粉末を開発、共同で特許を出願し商品化した。 ・この技術開発により、既存の海外製3D造形鋳型製作装置の10分の1以下の導入コストを実現した。

○理事長表彰

研究名	ダスト濃度自動計測器の性能評価に関する研究
研究概要	<ul style="list-style-type: none"> ・工場などの排ガスに含まれるダストをリアルタイムで連続的に監視する「ダスト濃度自動計測器」は、これまで性能を評価する公的な規格がなかった。 ・市販の計測器には主に3種類の計測方式（光散乱方式、光透過方式、摩擦静電気検出方式）があり、これらを統一した基準で性能を評価するための性能評価方法を規定し、4つのJIS（日本産業規格）を策定した。 ・JISの策定により、機器の性能の明確化や測定値の信頼性向上と測定器ユーザーの製品選択における客観的評価が可能となり、大気環境の保全に寄与できる。